

ふくしまの未来へ 2016

～3月11日知事メッセージ～

2011年 『ガソリンがない、食べ物がない、寒い。
ものすごく大変なときに、私は、人の心の温かさに触れ、
そのありがたさをかみしめながら、避難所に向かうことができました。』
——両親が被災した40代女性の思い

『祖父の作った原木しいたけは、とても肉厚で、美人しいたけと評判だった。
しかし、福島で原木での栽培はできなくなった。
その日を境に、祖父の体が少しずつ小さくなるように感じた。』
——中通りの中学1年生の体験

震災発生から1年を迎えた日
未曾有の災害に苦しむ中、私たちは、「ふくしま宣言」として、
『うつくしいふるさとを取り戻し、活力と笑顔あふれるふくしまを築いていく』ことを誓いました。

2012年 よみがえった相馬野馬追 —

2013年 洋上風力発電「ふくしま未来」の始動、あんぽ柿の出荷再開 —

2014年 国道6号の全面自由通行、避難地域の帰還開始 —

2015年 常磐自動車道の全線開通、ふたば未来学園高校の開校、
「世界一のSAKE」と認められた県産日本酒 —



あの日から5年
ふくしまの復興は着実に前へ進んでいます。
たゆまぬご努力をされている県民の皆様に敬意を表し、
福島に思いを寄せる多くの皆様の温かいご支援に、心から感謝いたします。



一方、今なお10万人近くの県民の皆様が避難生活を続けています。
時間の経過とともに、復旧・復興の状況に差が生じています。
これからどうしたらいいのか分からず、悩んでいる方もおられます。
私たちは、風評と風化という強い逆風とも戦っていかなくてはなりません。

ふくしまの子どもたちは、自分の夢や希望に向かって立ち上がり、歩みはじめています。

『私は大学に進学し、地域振興について学ぶ。
今は村に帰ることはできませんが、震災前よりも豊かな村に変えていきたい。』
——中通りに避難した高校2年生の希望

『人々でにぎわい、どんなことにも負けない福島県を築き上げる。
これからいっぱい勉強して、復興に役立つような職業に就きたい。』
——浜通りの小学5年生の決意

『2020年のオリンピック・パラリンピックが開かれるまでには、
世界各国の人々に自慢できる福島県の自然や環境を取り戻したい。』
——中通りの中学2年生の決意

私が描く、ふくしまの未来。
ふるさとを愛し、笑顔を輝かせる子どもたち。
世界に貢献する「メイドインふくしま」の最先端ロボットの開発。
県内原発の全基廃炉。再生可能エネルギー先駆けの地。
美しい風景やおいしい食べ物、温かいおもてなしに感動する国内や海外の皆様 —

「ふくしま宣言」の理念に立ち、誇りと自信を取り戻すこと。
そして、新しいふくしまの誇りを創り上げていくこと。
私は、強い決意を持って、未来のふくしまの創造に向け、果敢にチャレンジしていきます。

県民のみなさん。
自分の夢や目標に向かって挑戦を続ければ、必ず未来を切り拓くことができます。
未来のかたちを描くのは、私たちです。
新しいステージへ自らの足で大きく踏み出し、
愛するふるさとふくしまの未来をともに創っていきましょう。

平成28年3月11日

福島県知事 内堀雅雄

平成28年3月11日
福島県企画調整課

3月11日知事メッセージ 「ふくしまの未来へ2016」について

○ 「東日本大震災の体験談と復興への想い」から 引用させていただいた方

渡部 百枝	さん	47歳	教員
薄井 紗花	さん	12歳	矢吹町立矢吹中学校
村山 詩織	さん	17歳	福島県立橘高等学校
舘山 修弥	さん	11歳	南相馬市立石神第二小学校
鈴木 貴士	さん	14歳	矢吹町立矢吹中学校

※ 公募期間：平成27年12月2日～平成28年1月13日
応募件数：1,392件

○ 3月11日知事メッセージ起草委員会委員（※50音順）

内堀 雅雄	福島県知事（委員長）
加藤 卓哉	福島民友新聞社 取締役論説委員長
菊池 信太郎	特定非営利活動法人郡山ペップ子育てネットワーク 理事長
佐々木 孝司	新地町教育委員会 教育長
蜂須賀 禮子	大熊町商工会 会長
本多 環	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授
横田 純子	特定非営利活動法人素材広場 理事長
芳見 弘一	福島民報社 取締役編集局長

※ 起草委員会は、3回開催（第3回は書面開催）